

有明高専だより

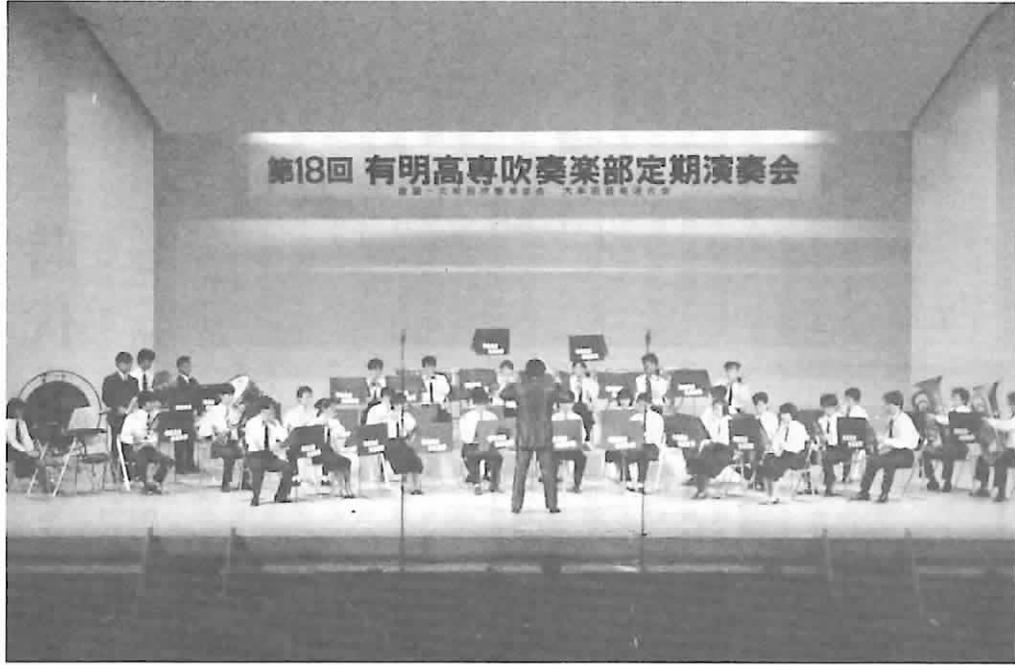
第 63 号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011

印刷：重富オフセット印刷



第18回吹奏楽部定期演奏会を終えて

実行委員長 3A 小宮 国枝

去る、昭和六十二年一月三十一日①に第十八回定期演奏会を開催致しました。会場は去年までと違い、今年から新しい文化会館を利用しての演奏会ということ、わからないことが多くかなり不安もありましたが、たいした問題もなく無事終了することができました。ホール内の音響効果も最高に良かったとのことですが、ただ一つだけ残念だったのは、観客数約六百名のうち、本校の学生、先生方の占める割合が少なかったことです。

今回の演奏会は、司会者に三年電気工学科の津留崎晃さん、アナウンスに四年工業化学科の井藤美幸さんを迎え、また、一部に現在勝立中学校で音楽の教師をしておられる菅原一智先生に指揮をお願いし、オリジナル、クラシックを演奏し、二部に四年工業化学科松井利一さんの指揮によるポピュラーミュージックを演奏しました。

この演奏会を実現するために、本当に部員全員が一丸となって頑張ってきました。いくつか反省すべき点も残りましたが、それを今後の課題とし、よりよい演奏会をつくりあげるよう努力していきます。我々吹奏楽部にこのような場を与えて下さった皆様方、この演奏会を聞くためにいろいろと御尽力下さったすべての方々に部員一同深く感謝しております。まだまだ未熟な私達ですが、今後も御支援のほどよろしく御願い申し上げます。

目次

- 1 吹奏楽部定期演奏会を終えて
- 2 新しい時代を迎えて
- 3 昭和62年度入学志願者数
建築設計競技に多数入選
バイク法令講習会
工場見学
- 4 昭和62年度研修旅行計画
藤一郎先生を偲ぶ
卒業を前にして
築立つ諸君に
- 5 卒業予定者の進路
- 6 図書館だより
- 7 同窓会だより
7年をふり返って
教室通信
- 8 学寮だより
- 9 学生会だより
新役員紹介
学生会長に選ばれて
役員研修
冬季球技大会
- 10 クラブ学生表彰者一覧
- 11 体育系クラブリーダー研修会
高専体育大会報告
- 12



新しい時代を迎えて

校長 竹村哲男

昨年末の円高の直撃を受け日本の繁栄をささえて来た輸出を主とする日本の企業は新しい転換期を迎えております。一ドル二四〇円時代の一ドルの輸出商品は現在の一ドル一五〇円では一、六ドルになり、このために企業はその形態組織の革命に全力をつくしております。主力工場の海外移転、技術開発による附加価値の高い製品への転換、海外企業との合併買収等が早い速度でなされております。今後日本の企業は新しい時代に突入するわけです。このような転換期にあたり二十一世紀をなす学生諸君は心を新たにこの転換期をのりきる真の技術者となるよう心掛けなければなりません。

企業のトップはどのように考えているか、これを知るのに昨秋経団連が四五〇社の経営トップに行ったアンケート調査の結果があります。二十一世紀のあなたの会社は?の質問に、全従業員の二〇%以上が海外勤務になるだろう。主力工場が海外に移転あるいは設立されるだろう。外人役員が誕生するであろう。企業の国籍が無くなるであろう。これらの答えが二〇%以上あります。実際面では国際

化の進む中で高専で遅れている語学力の強化に力をそそいでいたくない。高専在学中に学んだ専門知識が直接役に立つことは少い場合が多いが、どんな仕事を担当しても自信を持って自ら学んでいける基礎学力だけは充分に身につけておきたい。

二十一世紀へ向けての企業経営者の考え、高専卒業生の反省と要望は学生諸君が志を立てるのに充分な参考となることと思う。勿論本校に於いても基礎学力の向上については課題を与えての一斉テスト、語学力の一層の向上については工業英検、英検受験のすすめ、教養をつけるための読書感想文コンクール等諸先生方が努力されているが、一番大切なことは学生諸君がその気になることであります。このような空気が作られることを切に望んでおります。

昭和62年度入学志願者

638人(3.9倍)
機械工学科 146人(3.7倍)
電気工学科 236人(5.9倍)
工業化学科 118人(3.0倍)
建築学科 138人(3.5倍)

「昭和61年度福岡県内工業高校生並びに専門学校生による建築設計競技」に多数入選

毎年行なわれている表記タイトルの福岡県建築士事務所協会主催のコンペに、今年度も本校から二年生二名、三年生六名、四年生二名、五年生二名の十三名が応募しました。

課題は「同一敷地に両親と子息の生活する専用住宅(2世代住宅)」と、当を得たものでしたが、両親二人と子息夫婦、それに子供が三人で合計七人という大人数の家族構成であり、しかも両親と子息の日常生活は分離させつつ空間的連続性を保持せねばならない

- 法令講習会開かる
- 昨年12月2日(土)の放課後、約100名の交通違反・事故の学生を対象に法令講習会が実施されました。これは、本校初の試みで、言うまでもなく昨年5月の河野さんの死亡事故を踏まえ、さらに一向に減らない交通違反・事故に対して福岡県の他の高専の約2倍、学生諸君の交通安全への心構えを再認識してもらうために開かれたものです。大牟田警察署の小坪哲成総務係長の御協力で、まず、交差点の事故に関する映画を見た後、安全運転の心得について話を伺った。
- 要点を幾つか記すので、交通安全にぜひ役立ててもらいたい。
- (1)安全な速度を守る
 - (2)カーブの手前で速度を落とす
 - (3)交差点では必ず安全を確める
 - (4)一時停止で横断歩行者の安全を確める
 - (5)飲酒運転は絶対にしない
 - (6)交差点で右左折するときは歩く速さで
 - (7)停止するときは助手席の荷物が落ちない程度のブレーキで
- 工場見学
- 12月8日 4C
三井東圧化学(株)大牟田工業所
1月21日 3M
(株)三井三池製作所三池・港工場

昭和62年度 研修旅行計画

機械工学科

- 引率教官 山下 巖他一名
- 5・13(土) 大牟田8:24発→博多
 - 5・14(日) 西明石着・川崎重工(株)明石工場見学→神戸泊。
 - 5・14(日) ダイキン工業堺製作所見学→松下電器産業(株)本社技術館見学→大阪泊。
 - 5・15(月) 京都市内見学→京都泊。
 - 5・16(火) 京都駅9:51発→博多
 - 5・16(火) 52発→大牟田14:51着。解散
- 見学(13:30~15:30)→塩田温泉夢乃井泊(兵庫県飾磨郡夢前町)
- 5・14(日) 8:30宿舎発→旭硝子(株)高砂工場見学(9:30~11:30)→ダイキン工業流川製作所見学(14:30~16:50)→和泉屋旅館泊(京都市下京区西中筋正前下ル)
- 5・15(月) 自由行動(8:30~17:00) 宿舎は前日と同じ
- 5・16(火) 8:30宿舎発→京都市内観光→15:00 大阪空港→福岡空港→18:00 学校着。解散

電気工学科

- 引率教官 浜田他一名
- 5・13(土) 大牟田9:28発有明6号→博多10:41発ひかり24号→広島12:07着 東洋工業本社見学。広島15:08発ひかり26号→京都着17:07京都宿泊
 - 5・14(日) 京都工場見学(会社未定)→京都宿泊。
 - 5・15(月) 午前清水寺、平安神宮、銀閣寺見学。午後自由研修。京都宿泊。
 - 5・16(火) 京都→大阪空港→福岡空港解散。
- 引率教官未定
- 5・13(土) 大牟田駅8:28発有明4号→博多9:47発ひかり4号→京都駅14:00発近鉄特急→奈良着14:33→奈良公園→東大寺→春日大社→奈良泊(旅館南都)
 - 5・14(日) 薬師寺→唐招提寺→法隆寺→平等院→万福寺→京都泊(さと茂旅館)
 - 5・15(月) 終日グループ研修→京都泊(さと茂旅館)
 - 5・16(火) 京都発7:40→神戸ポートアイランド→異人館→新神戸発12:55ひかり163号→博多着15:57→大牟田着17:11

工業化学科

- 引率教官 渡辺・宮本
- 5・13(土) 7:45大牟田郵便局前出発バス→福岡空港→大阪空港→鐘ヶ淵化学工業高砂工場

建築学科

轟一郎先生を偲ぶ

建築学科 松島 寛治



轟一郎先生は、宇佐の神域を流れる駅館(やつかん)川にのぞむ虚空蔵庵寺の辺りでお生れになった。

齢七十になられる前まえから、御夫人のお里で、共々に暮らすことを想って、家の間取りのこと、裏の田畑のこと、表通りの山国川のことを楽しみに語っていらした。このお宅は代々神官の居館で、格調の高いものであった。

先生は、令夫人の里、中津郷三品の里に落ち着くと間もなく、令夫人を亡くされた。普通に仏壇のある場は元もとから神棚に祀らえてあり、そこに祀られた令夫人の御前で、奥歯を噛み締めておられた。そしてただ一人の御令嬢とお暮しになる。

嗚呼、天を恨むべきか、天はまた令嬢を召し給う。奥様をおまつりした同じ祭壇の前で、止め途なく涙を光らしていらつしやう。

よく、家内を連れてお見舞に行つた。一段歩もあろうかと思われぬ品を耕して真っ黒に日焼けしてわられた。川原にでて、山の向うにある求菩提山に行つてみたいとおつしやうしていた。鬼どもが一夜で造つた石段は背負つて登ろう、家内は尻押しをしようと三人で突つた。三人で、坊の津の、亡夫の歌集をダチユラの実にまともた未亡人の、梅崎春生が『幻化』に書いた宿に泊ろうと語つたこともあった。

帰えりには、手作りの野菜をそえ、町角の酒屋まで歩いて行つて豊後高田の銘酒、西の関を三本、手渡して下さるのが常であり、舶来ウイスキーよりも高価なものであった。

悪性の肝炎で、中津の国立病院に入院された。先生は阿蘇を愛しておられた。家内と駒込し峠に行き、太くたくましい山リンドウを採り、お通い途にある花屋の生花にそえて、思い出話にふけたこともあった。その後先生の御不幸は続いた。都度、他人事とは思はず、御回復をお祈りした。

突然、正月二十三日、先生の訃報に接した。肝不全であった。会葬者は里人が多かった。早くから余りにもおお勢が集まられた

ので定刻より早く読経が始められた。小生は玄閣側の末席に座る。御尊影は、前二回の祭壇の右側に在る先生の居間に安置してあつて拝めなかつたが、その方がよいと思つてた。

里長が進み出て、勲二等瑞宝章と言いつつその徳を讃え、共になした仕事を明らかにし、先生をなくしたことを心から悲しんだ。里人と共に泣いて仕方がなかつた。

里人が、おくやみを申し上げたいと申し出た。そうして、訃とつと、仕事着をきた工学博士と仕事をした仕合せを語り惜み泣いた。

轟先生の一生は悲しみに満ち、もう一つの人生はわずかに六年であつた。なきがらは行雲に乗つたが、たましいは山国川の流水に残る。空即是色、体は瑞宝明德居士色即是空、心は金剛力士のもの。まさに生死一如の六年であつた。

略歴

- 昭10 九州帝国大学工学部機械工学科卒業
- 昭15 熊本高等工業学校講師
- 昭33 熊本大学工学部教授
- 昭34 工学博士の学位授与
- 昭42 熊本大学工学部長
- 昭46 有明工業高等専門学校校長
- 昭49 産業教育90年記念教育功績者として表彰
- 昭55 勲二等瑞宝章受章
- 学術論文のほか「加藤家の人々」「刻石随想」などの著書あり。

卒業を前にして

機械工学科
猿渡 清成



昭和五十七年春、私は期待と不安が入り混じった複雑な心境で有明高専の門をくぐった。予想はしていたが教室中男子学生で埋め尽くされておき、これほどの殺風景は見た事がなく、少なからず私の心に戸惑いが起ったはずであり、同時に、競争も熾烈であろうとも思っていたはずである。小学校中学校と一緒に学んできた友人は違う学校に進学し、周りを見渡しても誰一人として知っている人はいない。入学当初は誰もが自分の良い所ばかりを見せようとしていたが、時がたつにつれ化けの皮がはげ段々と悪い姿を見せてきて、気付いた頃には我がクラスは先生方の間で悪漢的存在となつてしました。しかし、こんな環境は小学校時代から慣れており、私はこの雰囲気になれず着々と自分の道

を脇目を振らず進んでいきました。今振り返ってみると、前に述べた事が現在の自分を築き上げてきたのだと思います。

五年間の高専生活でいろいろな事がありました。五年の時の体育祭ほど感慨深かった事はありません。我ら機械工学科は神話を甦らすべく最強の布陣を配し、学対抗リレーを除く全団体競技で勝利を収め9年ぶりの優勝を射止めた。自慢ではないが私は足には自信があったので、学対抗リレーのアンカーとして抜擢され出場した。経験者もいると思うが最終種目での緊張といつたら物凄いのであつた。なぜなら、最終種目で電気工学科に2つ以上の差をつけられたら優勝できないからである。途中経過は省略するが、五年生第3走者中継時点で2位電気・4位機械、第3走者が踏ん張り3位に浮上したが、4位との差はわずかに5mしかなく、もしアンカーで抜かれたら負けにつながる。そこで私は持てる力を振り絞り周囲の声援も聞こえぬほど全速力で走り抜き、そのままゴール、機械工学科の優勝が実現した。

あと残りわずかで有明高専を卒業するわけだが、高専に在籍している間は失敗を大目に見てもらっていたが、これから出ていく社会では小さな失敗さえ許されない。ましてや、人生を狂わす事はもつてのほかである。この様な過ちを起さないためにも、まず残り少ない間に必要な基礎知識を身に付け、何が起きても落ち着いて対処し冷静に行動するための判断力を養い、自分の素質を伸ばす方向へ仕向け、精神面を更に向上させる事である。

昭和三十二年春、五年間通い続けた学舎の門をくぐり抜け、五年前と同じ心境で一般社会という長い階段を登り始めようとしている。電気工学科
木庭 知男



僕は、有明高専に入学して、はや五年の月日が流れ、もう卒業を目の前にしている。思えば五年前、僕は、高専の存在こそ知ってはいたものの、内容やその場所についてはほとんど知らず、ましてやそこに入学するつもりなど全くありませんでした。当時、僕は普通高校へ進学するつもりで、受験勉強をしていました。

そんな中学三年生の一月、父が脳内出血で亡くなりました。父の急死は、僕の進路を大きく左右し、僕は一時、進学の断念さえ考えたものです。しかし、奨学金の予約奨学生として決定してしまし、母の希望もあり、本校へと進学しました。ただし、僕の高専への進学は絶望的なものではなく、小さい時から機械いじりが好きだった僕にとって夢の一つであった技術者の道へと進路を決定したものであります。

それやこれやで、希望や心配を胸に抱いて入学した有明高専であつた。後悔した事が無い訳ではないが、整った設備の中で、五年間の一貫した教育によって一人前の技術者をつくり上げていくといった高専の教育体制は、僕にとつて最良の道を選んだのだと思うし、この五年間は大変有意義なものでした。

最後に、この五年間、共に学んだ友人達、指導して下さいました先生方、お世話して下さいました職員の方々、そして特に今まで面倒を見てくれた母に、心から感謝したい。工業化学科
北野 博久



最初に、断つておく必要があるだろう。この場に、あなたためおいた思い出話を期待して読まれる方は拍子抜けされるかも知れない……と。確かに目前にせまる「卒業」とは、人生における重要な節目であり、実社会へと移行する日付変更線とも言える筈である。しかしながら、「卒業式」というセレモニーで感慨に耽ることや、水源の湧き水のように溢れ出す思い出の数々を拾い集めることだけが、今現在、我々のなすべきことではないようである。

七レモニーとしての「卒業式」は例年の如くやってくる。そして卒業生は例年の如く巣立つて行く、それは、まるで年周期の循環のように見える。しかし、その状況は毎年変化している。小規模だが確

実に変化しているのだ。ましてや現代の社会はどうだろうか。我々を取り巻く世界は激動している。表で裏でその形態を秒刻みで変えている。例えば、昨年一年の間に門高は急速に進み、原油は暴落ともいえる状況になった。これらは一年前に予想もし得なかつたことである。それ程に社会の動向は、急激で計り知れない。

それでは、こうした時流における我々へ、真に要求される行動とは何だろうか。はつきりと表現できないが、その概要は今迄に培われてきた、あらゆる知識や経験を駆使することによって、独自の力を発揮することにあると言えらる筈だ。もちろんその中には、未だ見知り得ぬ事柄もあるかも知れない。だからと言って恥じる必要など何処にもない。現状の僅かな幸福に甘んじ、浸り切っている姿に比べれば、遠大な目標を目指している姿の方が、遙かに美しく輝いている筈だから。

様々な角度から自己を見つめ直す、15歳から20歳までの多感な世代において、常々、追いつめられるような焦りがあったようだが、しかし、少しずつ気付けてきたことがある。

やはり「初志を貫き通せる人物」こそが本当の意味ではばらしく、目指して行きたい姿ではないだろうか、こう思っている次第である。

建築学科
清家 忠信



もうすぐ卒業する。最近になってやつと実感が湧いてきた。一年生の頃、五年生になった時、卒業するのが遠い未来のように思えていたが、今こうして卒業を前にすると、何とも言えない気持ちだ。あれだけ長く感じたグランド、あれだけ長く感じた五年間がこんなにも狭く、短く感じられるのは、今までの高専生活によって自分がそれなりに成長した証のように思える。本当にいろいろな事があり、いろいろな事を感じた。高専に入学して最初の衝撃は、五年生の先輩達を見た時だった。老けてる。先輩達がどこかのおじさんに見える。五年後自分もあんなになるのかと思うと悲しかった。今の一年生から見るとやつぱり僕達もおじさんに見えるのだろうか。一番嬉しかった事は、三年生の時の西日本高専弓道大会で個人優勝した時だった。優勝が決まった瞬間、何が起ったのか自分でも判らず、次第に嬉しさが込み上げてきて緊張からの開放と混つて目まいを起こしテントの中に倒れ込んでしまった。

あの感激は一生忘れないだろう。二年生の時の由布院への研修旅行これも忘れられない思い出の一つだ。朝、宿舎の食堂から見た雲海。そこへ朝日が差し込んでとても綺麗だった。由布岳山頂からの景色もすばらしかった。そうそう宿舎の夕食も最高においしかった。出来るならもう一度行きたいと思つている。四年生になって腰を悪くして夏休み入院。お年寄りに混じつて治療をしていると、自分の歳を疑つてしまった。入院生活も慣れば天国。退院した日は、嬉しさで悲しさが混ざつて複雑な気分だった。そして五年。僕にとつて最も短く、最も多くの事があった。まず大学への進学失敗。先生方からの就職の話を断つて試験を受けたのはいいが、見事に不合格通知をもらつてしまった。

それでもなんとか無事に就職することが出来てひと安心した。腰痛と戦いながら卒業設計もなんとか仕上げ、今卒業研究をまとめていく。これを無事仕上げて早く卒業したいというのが今の気持ちです。四月には社会人、僕が社会に出てやつて行けるのかと不安な気持ちでいっぱいだが、高専で得た事、みんなの思い出そしてこれからの自分の目標を胸に刻み込んで、一歩一歩確かな道を、悔いなき道を踏みしめて歩いて行こうと思つています。

巣立つ諸君に
学年主任(5M担任)
庵原 久夫

諸君が国立有明工業高等専門学校に入学されてより、はや幾星霜が流れ、思い出深い萩尾台を巣立つ日も間近に迫ってきました。たゆまぬ研さんの甲斐あつて、卒業証書を手にすると共に、それぞれ希望する企業に技術者として迎えられ、技術立国の屋台骨を支えることとなります。又、一部の諸君は、更に深く学問すべく大学に進まれます。何れも自ら選んだ道に進み得たこと、誠に喜びに堪えません。

「光陰矢の如し」とはよくいったものです。長くもあり、短くもあつた高専生活であつたと思ひますが、特に最後の一年間、私は5学年主任として、また5M担任として諸君と苦楽を共にし得たことは終生忘れ得ぬこととし、心奥深く焼付くことでしょう。さて、ひるがえつて世の中を見渡しますと、諸君が乗り出す社会においては、円高ショックの嵐が吹き荒れています。1年数ヶ月の間に1ドル250円が150円に変わったということは、今迄250円の原価でつくっていたものを150円でつくらなければ世界市場での競争に負けるということです。こういう時期に社会に乗り出すわけですから、入社早々より厳しい

状況が待ちうけていることは容易に想像できます。しかしながら過去にも同じ様なことがありました。昭和48年の第1次オイルショックと54年の第2次オイルショックです。この時社会は混乱し、メーカーも苦境に立たされましたが、大多数のメーカーは異常な努力を傾注することで難局を切り抜けたものの、対応策の優劣で企業間格差を生じました。個人についても同様のことがいえます。平穩無事の時は個人差は目立ちませんが困難な環境下では、個人の能力差が歴然としてきます。か、る困難な時こそ能力を発揮する千載一遇のチャンスです。もし、こゝで無為に過せば、その人は無能の烙印をおされ、一生が台なしになりかねません。教育カリキュラムからみても諸君は高専でみっちり基礎学力を身につけ、工学知識では決して一般の大学生に劣るものではないはず。高専卒業生の就職率が現在迄100%を誇っているのも先輩達が企業において大学生に負けない仕事をしてくれたお蔭なのです。

どうぞ健康に留意し、精神一到何事か成らざらん」の気概をもつて、有明高専の名を高揚すべく、精進されんことを祈念いたします。

卒業予定者の進路

機械工学科

池田 高広 三菱電機(株)
池末 隆光 (株)日立製作所
石原 英久 九州松下電器(株)
石橋隆一郎 パナフアコム(株)
上嶋 孝広 日本電装(株)
請村 博文 フーナック(株)
大井 克利 トーヨーサッシ(株)
甲斐田晃徳 日本科学治金(株)
加藤潤一郎 ダイキン工業(株)
樺島 浩二 鈴木自動車工業(株)
北川 健一 九州不二サッシ(株)
木下 実 三菱化成(株)
木村 一博 (株)三井三池製作所
小塩 康弘 (株)東芝
酒井 宏司 日清紡績(株)
坂田 隆一 河村電器産業(株)
佐々木義久 花王(株)
佐藤 公則 NOK(株)
篠渡 清成 松下電器産業(株)
島本 和浩 日本ビクター(株)
竹原 康裕 九州ミツミ(株)
玉本 一人 西部瓦斯(株)
津留 英樹 (株)安川電機製作所
戸上 暢啓 富士電気化学(株)
永井 良和 菱化工業(株)
新島 伸吉 高破熱学工業(株)
二宮 智樹 新日鉄化学(株)
原田 英治 大電機(株)
平川 伸二 三菱重工業(株)
廣松 義隆 東陶機器(株)

電気工学科

堀 保 三井東洋化学(株)
本田 貴久 相生精機(株)
松井 利孝 マツダ(株)
丸山 龍志 日新電機(株)
渡辺 清也 富士写真フイルム(株)
渡辺 俊彦 明和機工(株)
安東 聖一 日本電気ホームエレ
クトロニクス(株)
石蔵 貴 佐賀エレクトロニッ
クス(株)
市村 直幸 電気通信大学
今村 道夫 中部電力(株)
入来 貴範 九州三菱電気ブラン
トサービス(株)
梅崎 誠 東芝システムテクノ
ロジー(株)
衛藤 浩美 キヤノン(株)
柿添 健介 横河メデイカルシス
テム(株)
河野 清 (株)安川電気製作所
木原 雅孔 日本電気トランスミ
ッションエンジニア
リング(株)
木村 直哉 沖電気工業(株)
清田 真一 東芝オーディオビデ
オエンジニアリング(株)
清田 敏行 (株)ブリヂストン
清谷 和久 日本電装(株)
幸田 芳典 三洋電機(株)
古賀 雅典 三菱電機(株)

工業化学科

木庭 知男 横河電機(株)
津村 周二 トヨタ自動車(株)
下津浦了治 日本電気通信システ
ム(株)
末吉 孝博 日本電気フイールド
サービス(株)
鈴木 正親 九州明電エンジニア
リング(株)
角 信昭 (株)東芝
堤 良則 西日本フランク工業(株)
中溝栄次郎 高砂熱学工業(株)
野田 政任 富士写真フイルム(株)
畑中 弘明 日本ビクター(株)
原田 英昭 豊橋技術科学大学
吹春 幸一 富士通テン(株)
藤井 司 サン大潮
松田 和久 日本DEC
松田 史郎 九州電気製造(株)
村田 克也 日本電気(株)
山下 恵三 (株)東芝
山下 猛昭 日立通信システム(株)
山中 英樹 三菱重工業(株)
吉原 稔暢 三菱重工業(株)
阿部 利広 九州日東電工(株)
井形 一紀 ダイキン工業(株)
池田 修 (株)ビジネスコンサル
ティングセンター
石本 新一 神学校
石原 国泰 日本電気アイシーマ
イコンシステム(株)
上原 貞晴 日本IBM(株)
鶴瀬 元康 (株)ソフトエクス
セル
江崎 佳明 晶和合成(株)
太田 浩一 日本電気ソフトウエ

建築学科

北野 博久 岩谷瓦斯(株)
黒田 孝一 チッソ(株)
島添 光正 三井デューボンフロロ
ケミカル(株)
下田 靖 (株)安川電機製作所
下原 一也 トーヨーサッシ(株)
新開 光三 東芝プロセソソフト
ウェア(株)
瀬戸島弘一 福岡酸素(株)
高木 啓一 チッソ(株)
竹田 千寿 三井東洋化学(株)
田中 剛 旭化成工業(株)
田中 博文 ブリジストンソフト
ウェア(株)
富 嘉剛 豊橋技術科学大学
中山 正丈 日本科学治金(株)
西村 泰治 富士ダイス(株)
西山 明男 (株)フジコー
野添 拓見 三菱製紙(株)
畑川 竜也 大谷塗料(株)
平井 浩二 長岡技術科学大学
松本 香鶴 九州工業大学
丸山 高広 旭化成工業(株)
美川 文夫 昭栄化学工業(株)
宮崎 勉 日本テータシステム(株)
村上 豊昭 日本総合システム(株)
和田 哲朗 (株)イチボウアルマ

岡田 英介 (株)三晃空調
奥村 満治 安川情報システム(株)
鬼木 俊昭 西部ガスエンジニア
リング(株)
角 惣市 (株)船場
高口 幸雄 (株)新井組
江田 昭彦 三井ホーム(株)
古賀 敏宏 西部ガス(株)
合原 孝善 新日鉄化学(株)
権藤 敦子 (株)商業美術建築設計
事務所
坂田 正信 日本電気ソフトウエ
ア(株)
杉野 尊志 トーヨーサッシ(株)
清家 忠信 (株)日立建設設計
竹浦 武則 (株)大林組
竹山 勝則 フジテック(株)
立山 泰成 (株)守谷組
谷本 卓也 九州石油瓦斯(株)
時津 好成 上村建設(株)
富重 一仁 九州日本電気(株)
中内 哲也 三井ホーム(株)
中西 寿人 長崎大学
中山 勝己 (株)ゼン環境設計
西田 正子 (株)井上デザイン
西山 智幸 北洋建設(株)
馬場 繁徳 大東建設(株)
廣田 隆徳 殖産住宅相互(株)
松下 伊納 東京ガス(株)
松山 裕之 ダイキン工業(株)
毛利 智毅 高砂熱学工業(株)
守田 政晴 若尾建設(株)
矢野 達雄 西松建設(株)
吉村 智樹 第一建築(株)
龍 和宏 パナフアコム(株)
若杉 勝弘 上村建設(株)

有明 図書館だより 53

地域と結びついた

図書館運営のあり方を構想する

図書館長 丹後 杏一

明治以来今日まで石炭と工業の都として日本の近代化と歩みを共にしてきたこの大牟田の町も、四十年代以降のエネルギー革命に伴う構造不況に加えて、このところの円高不況の影響をもちに蒙って百年来の最大の転機を迎えようとするかにみえる。勿論、私達はここで大牟田の町が今後どのような方向へと構造転換を遂げようとするのか、その未来の姿を予測することはできない。しかし、何れにせよ、このような転機に際会したからにはそれなりにそのこと、歴史的な意味を熟考するとともに、過去百年の町の歩みをふりかえってみる必要はないのか。私達はここに、三池炭坑を中心とした大牟田・荒尾地区の近代史に関するさまざまな資料を収集・整理し、それを後世のために学問的に体系づけることの必要性を痛感するのである。もとより、すでにどこかで構想され、具体化されつつあることとは思うが、私達は、この大牟田の町に石炭産業を中心とした「近代史資料館」が設立されること

をつよく望むものである。そしてもしそのような計画が企図されるときには、この有明高専の図書館も当然何らかの形で協力すべきではないかという風に考える。私達の図書館も、単に無性格な集書を行うだけではなく、もっと地域に密着した資料収集をすすめて、地域の文化の発展に寄与するという方向をめざすべきではないだろうか。関西地区で有明高専が開校以来行っている兵庫県資料の体系的な収集の成果などには到底及ぶべくもないにしても、それらを見ながら与えられた貧しい条件のもとでやれるだけのことはやってみたいと思う。

以上は図書館の仕事を担当して五年目の年を終えようとするにあたっての私のささやかな構想である。地域の経済や産業の歴史的遺産を蓄積し、それを土台にしてこそ大いなる技術革新をめざしての飛躍がなされるものと考えられるのであるが、如何なるものであろうか。「過去を忘れる者は現在にも盲目になる。」(ワイツェッカー)

第五回

校内読書感想文

コンクールを実施して

本年度も例年通り読書感想文の校内コンクールを実施し、一月八日に校長より入賞者の表彰が行われた。その概評は二月中に発行される『読書感想文集』第五集誌上に掲載される予定なので、それをよく読んで欲しい。ここでは、入賞者の氏名と作品名とを記録するにとどめる。

「入選」七名

- 「愛、深き淵より」を読んで 2 E 奥蘭 治
- 「罪と罰」を読んで 3 E 三輪哲哉
- 「青年海外協力隊」を読んで 5 E 市村直幸
- 「ことばと文化」を読んで 4 E 小川正弘
- 「老人と海」を読んで 2 E 谷崎文子
- 「二ころ」を読んで 3 A 入米武雄
- 「人間失格」を読んで 2 C 濱田美樹
- 「佳作」九名
- 「ことばと文化」を読んで 4 M 黒田康夫
- 「破戒」を読んで 2 C 前田雅子
- 「菩提樹の花咲く国」を読んで 5 A 西田正子

新着書紹介

最近購入した本の中から読んで面白く、かつためになると思った本を数冊えらび、紹介します。

- 「命を染めし一竹辻が花」を読んで 3 C 石橋ゆかり
- 「沈黙」を読んで 4 A 坂本 圭
- 「蜘蛛の糸」を読んで 1 A 巻口義人
- 「塩狩峠」を読んで 4 C 井藤美幸
- 「塩狩峠」を読んで 1 C 松野誠志

○舟田詠子『アルプスの谷に並麻を紡いで』オーストリア・マリアルカウ村の人びと——(筑摩書房)。近代化されたヨーロッパとは異なるもう一つの素朴なヨーロッパの姿がよくえがかれている。

○林茂雄『マッカーサーへの手紙』(図書出版社)。米軍占領下の日本でマッカーサー元帥に宛てて書かれた各層の人々の手紙が今も保存されていた。その中には中曾根現首相の手紙もあり、あらためて日本の戦後史を彷彿させられる思いがする。

○ロバート・ホワイティング『ジエシーとサリー、ガイジン力人物語』(筑摩書房)。著者はアメリカのスポーツ・ジャーナリスト。米国籍のガイジン力士高見山と小錦が風俗習慣の異なる日本、それも相撲界という特異な世界でそれこそ並々ならぬ苦勞と努力を重ねて大成した経過を対談を交えながら面白くえがいている。

○ゼルマ・M・アイズンガー『ゼルマの詩集』(岩波ジュニア新書)。ナチス・ドイツ占領下の東欧のチェルノヴィツの町(現ソ連領)の収容所で僅か十八才で命を絶ったユダヤ人の一少女が生前数年の間に書きのこした詩集。小冊子ながら心打たれる本。

同窓会だより

7年をふり返って

浅田敏彦 (55E)

早いもので、萩尾台を巣立って7年が過ぎようとしています。あの長い坂道を必死に自転車をごいだり大きな藤棚の下で本を読んだ日、そしてクラスメートとまじめに野球をした日などが本当に懐しく思い出されます。

ところで、先日仕事で久々に母校を訪れる機会がありました。在学中は広大にさえ思えた敷地ですが、見渡すと、完成した実習センター、第2体育館、食堂がある修己館と目新しい建物が立ち並び、「時代はどんどん変化するなあ」と一人感心した反面、当時私たち学生の憩いの場となっていたあちこちの芝生の広場が少なくなっているのを見ると「今の学生はきっとゆとりがないんだろうな」なんて心配するのは、私の老婆心でしょうか。

さて、冒頭に仕事で学校に伺ったと書きましたが、私はいま、どういうわけか出身地の荒尾で市役所に勤めています。卒業後、各種自動販売機や冷凍ショーケースの製造販売を行う富士電機冷機機(本社東京)に入社したものの、父が死去し、家庭の都合で自宅から通勤できる所に転職しなければならなくなった私は、地元荒尾市の職員採用試験を受け、偶然にも合格したわけです。

転職と言え一言ですが、これには正直言って相当悩みました。技術屋と事務屋——180度の転換だからです。三年間の勤務で多少営業についても経験していましたが、ある程度割り切っていたつもりなのですが、これほど技術屋としてのプライド(意地と言った方が正確かもしれません)が残っていたようとは、私自身意外でした。何か不完全燃焼のまま残り残した気がして、その合格を素直に喜べませんでした。こう言うのと今のように賃金カットや一時帰休、さらには大幅な人員削減など厳しい雇用状況に苦しむ人々から、お叱りを受けるかもしれませんが、かなりの時間苦しんだのも事実です。結局、お世話になった会社の上司や先輩方の説得にも拘らず、安定性のある公務員を選び、現在に至っています。どちらの選択が正しいかは、今後の精進次第で決まるといったところでしょうか……。

さて、いまの私の配属先は『荒尾総合文化センター』



です。ご存じでない方も多いと思いますので、簡単に説明しますと、三井グリーンランドの南隣に昨年6月オープンし、総工費33億円、2万㎡の敷地に地上4階地下1階、建築面積5,800㎡、延床面積8,500㎡で、1,200席の大ホール、420席の小ホール、録音や録画編集が可能なスタジオ、展示ギャラリーや子ども科学館などを有する複合施設です。使用料についても低く抑え、使いやすくなっていますので、高専関係の方々をはじめ皆さん是非一度ご利用いただきたいと思います。また、丸い屋根の子ども科学館には、小・中学生を対象にした遊べる展示品を集め、小さいながら九州でもめずらしい施設ですので、帰省の際にでもお立ち寄り下さい。お問い合わせは☎09686-6-4111までどうぞ。

私の仕事はホールなどの貸出業務、市主催の自主文化事業の企画、音響などの舞台技術操作などですが、日曜祭日がないうえ夜間の仕事も多く、一般の行政職とは大きく異なるものです。

まだまだ、行政マンとして素人ですが、今後の抱負として基礎的な法律を勉強して、自分の仕事に誇りが持てるよう、そしてまた立場こそちがえ、エンジニアのプロとして活躍中の皆さんに負けないよう「行政のプロ」を目指して日々まい進したいと思います。

最後に、文化センターの子供向公開講座の一環として行っているマイコン教室の開催にあたって、電気科の荒木・松野両先生および電算室の坂西先生には、ご多忙にも拘らず多大なご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

また、毎回楽しい高専だよりを届けて下さる事務局の方々のご苦勞に対し、敬意を表するとともに、有明高専の益々の発展を祈念し、ペンを置きたいと思ひます。

教室通信

機械工学科

- ※次の方が結婚されました。おめでとうございます。
 ◆荒木裕明君 (50) ○62.1.18 結婚(新婦好枝さん)
 ◎〒160 東京都墨田区横網 大和マンション403
 TEL (03) 624-3576
- ◆石川芳幸君 (56) ○61.10.19結婚(新婦佳子さん)
 ◎〒806 北九州市八幡西区小嶺台1丁目5-13
 TEL (093) 613-3410
- ※同窓生の転勤、転居をお知らせ致します。
 ◆前川博治君 (48) 61年10月三井東圧化学(株)東京本社(霞ヶ関)に転勤 新住所〒168 東京都杉並区宮前1-15-10 富士見ヶ丘アパート
- ◆内野多美夫君 (49) (株)正興電機製作所 古賀工場 福岡県粕尾郡古賀町古賀1295 TEL (092)-943-7181 (住所) 〒811-31 福岡県古賀郡古賀町青柳201-1 TEL (092) 943-7974
- ◆岩崎嘉夫君 (49) 〒655 神戸市垂水区星が丘3丁目4-17-512号
- ◆森川亮介君 (50) 〒673-14 兵庫県加東郡社町沢部709-2-1-501
- ◆梅木春男君 (56) 〒471 豊田市丸山町7-51
- ◆深浦 治君 (56) 〒187 小平市小川東町3-4-309

建築学科

- ※次の方が結婚されました。おめでとうございます。
 ◆福田雅人君 (50) ○61.11.8 結婚(新婦佳子さん)
 ◎〒167 東京都杉並区本天沼2-42-27 TEL03-396-8597
- ◆西原克之君 (51) ○61.11.30結婚(新婦直子さん)
 ◎〒890 鹿児島市草牟田町2030リバーサイド草牟田3の20
- ◆中地明彦君 (59) ○61.12.20結婚(新婦智美さん、59C卒) ◎〒380 長野市上松5丁目12-63-303
- ◆東雲聖一君 (60) ○61.7結婚(新婦(原)淳子さん(59))
- ※同窓生の転勤、転職、転居等をお知らせします。
 ◆渡辺俊朗君 (48) ◎転居〒861-08 玉名郡南関町小原小原団地5棟の2号
- ◆相良比呂志君 (49) □転勤 四国郵政局建築部技術課(〒790 松山市宮田町8-5 TEL0899-36-5183)
 ◎〒790 松山市本町7-1-3の401 TEL0899-22-9366
- ◆藤崎正弘君 (50) □転職 Y S 建築コンサルタント
- ◆川添忠司、史君 (52) ◎転居 〒847-13 東松浦郡肥前中浦949
- ◆谷澤俊範君 (54) □転職 翔設計室(東京都新宿区百人町2の11の24 染矢グロービル)
- ◆小形伸治君 (57) ◎転居 〒078 旭川市二条通22丁目美園マンション2-301号 TEL 0166-34-9328
- ◆荒木祐一君 (58) ◎転居 〒862 熊本市上熊本1丁目2-30 第1いっこうハイム202
- ◆柴田国広君 (58) ◎転居 〒576 大阪府交野市私部2丁目19-6
- ◆吉浦美博君 (59) □転職 長塚工業(有) ◎〒859-63 長崎県北松浦郡吉井町直谷免1007の21 TEL0956-64-4228
- ◆野田幹夫君 (60) □転職 (株)朝日工業退社後自営
- ◆平田桂子君 (60) □転職 大蔵住宅退社
- ◆山下正君 (60) □転職 龍ヶ岳町役場企画課 ◎天草郡龍ヶ岳町龍島92の1 TEL0969-62-1287
- ◆江崎和彦君 (61) □就職 東洋建設(株)横浜支店(〒231) 横浜市中区南仲通1丁目5番地 TEL 045-212-3923
- ◆鈴木大作君 (61) □転職 金城建設
- ※岩永勝弘君 (58) は第21回セントラル硝子国際建築設計競技で佳作となりました。おめでとうございます。(新建築昭和61年11月号参照)
- ※学校来訪者(敬称略)
 松本尋己 (59) ・江崎智子 (60) ・井手一雅 ・寺田尚彦 ・脇坂信吾 (以上61)

- ◆城 俊幸君 (61) 東京エレクトロン(株) 蓮崎工場へ転勤(1年在住予定) 住所〒407 山梨県蓮崎町藤井町北下条1180-28 東京エレクトロン蓮崎寮
- ※正月2日各クラス会が下記の通り催された。
- ◆第13期生 (55年卒) クラス会がオームタ・ガーデン・ホテルで催された。出席者は、淡路・今岡・椋島(寿) 椋島(俊)・茂見・杉本・田中・武末・友田・松藤・宮崎らの諸君と小田・猿渡・川崎の各先生で、それぞれ近況報告や結婚への抱負などが歓談された。
- ◆第17期生 (59年卒) クラス会も同じくガーデン・ホテルにて開催。出席者は、荒木・池松・入江・笠原・黒田・佐々木・上土井・立山・鶴田・永田・西山・登川平川・永松君らで、卒業3年目それぞれの仕事を身につけてつとめたと感じられた。彼等の卒業と同時に退官された木本先生もお元氣な姿でご出席され、以前と変らぬ調子で卒業生を激励されていた。学校側は田口・川崎の両先生出席。
- ◆第19期 (61年卒) クラス会が大牟田市の江戸沢で行われた。出席者は卒業生約20名と田口・川崎・大山・多田隈・上原・5名の先生方。全員より近況報告があったが、皆不況に喘ぎながらもたのもしく頑張っている様子であった。

電気工学科

- ◎同窓会
 第14回生 (56) S62.1.2「いそ吉」において行われた。出席者は幹事月田・浜口君他11名。
- ◆森口薫雄君 (56卒) 昭和61年11月24日結婚 新婦 弥生さん ◎新居 〒865 玉名市松木26番地-7 シャルム久保田202 TEL 09687-3-5074
- ※学校来訪者(敬称略)
 古賀 稔 (54) 中山富男 (56) 田島浩二 (59) 村田真也 (59) 浦塚 精 (60) 原田茂徳 (60) 齊藤隆幸 嶋本 篤 田上光喜 松尾基史 (以上61)
- ※次の方々から教室に年賀状をいただきました。(敬称略) 沖 喜彦 (48) 橋口和弘 (52) 近藤 洋 (55) 大田明範 江崎浩秋 鎌水正一 (以上56) 工藤信幸 松藤 稔 宮地寿人 (以上57)

工業化学科

- ※次の方々結婚されました。おめでとうございます。
 ◆河津映二君 (53) ○62.2.22 結婚(新婦明子さん(旧姓中村)) ◎〒651-11 神戸市北区君影町1丁目1番地19号棟503号
- ◆堺 宏之君 (54) ○61.11.30結婚(新婦晃代さん)
 ◎〒869-03 玉名郡玉東町大字木葉8の1
- ◆原 浄乃さん(旧姓高尾) (58) ○61.11.23結婚(新郎原 正彦さん) ◎〒860 熊本市本荘5-1-5 坂井ビル305号 TEL 096-363-0445
- ※転居、就職のお知らせをします。
 ◆江崎裕二君 (60) □転居〒290 千葉県市原市辰巳台東3丁目27の2 チッソ石油化学(株) 向陽寮 TEL0436-74-5114
- ◆河地照光君 (61) □就職 九州ノゲデン(株) ◎861-01 熊本県鹿本郡植木町植木182 堤アパートの2

銀杏棟 青葉棟 紅葉棟 学寮だより 若葉棟

活気ある岱明寮をめざして

昭和62年度寮生会役員紹介

寮長 4M 江藤 公俊

私は、4年間岱明寮で生活して来ました。よく先生方から「この寮生活で学ぶことは多い。社会人になつたらさつと役立つ。」と言われます。しかし、正直に言つて私はこの4年間に何を学んだであらうか。情けない話ですが、規則を破るような場合どうしたら先生に見つからずにすむか、先輩にとがめられない無難な過ごし方をするだけではなかつたらうか。

副寮長 3C 瓦田 貴之

この度、三年寮生全員による投票により副寮長になつた瓦田です。61年度は紅葉棟寮長を勤め、大変きつい思いをしたので、絶対副寮長にはなりたくないと思つていた。しかし、皆の強い推薦によつて選ばれたので、今はやる気一杯です。この寮は改善しなければならぬ。点が沢山あります。寮長の江藤さんと共に、勉強ができ、生活しやすい寮にするため頑張ります。

総務・渉外 4A 森 年幸

この度、この様な大役を任せられ、大変光栄に思つております。私の任務は、寮生会の様々な行事に際して、その内容や進行について先生方、寮長や各役員とよく話し合い行事がスムーズに進むよう取計う事が主な仕事です。

寮行事

寮祭 5A 竹浦 武則

61年度、第24回岱明寮寮祭は11月15日(土)、竹村校長をはじめ内外からのお客さんを迎えて盛大に催された。

今年も、プログラムを充実させ、大声大会、二人羽織を復活し、新しく長声大会を加えた。

寮祭は、開会宣言直後停電した

前役員の先輩方に御叱りを受けぬよう、又、寮生の皆さんに迷惑をかけぬよう、しっかりと頑張つていきたいと思つています。

総務(書記) 4M 黒田 康夫

私は、総務も主に書記関係を任務とします。また、寮生会各局の活動がより円滑に進行するようにいろいろと企画・調整することです。このような大役に就任し、少し戸惑いもあります。寮長を助け、明るく楽しい寮生活が送れるよう一生懸命頑張ります。

局長紹介

- 会計 4A 茨木 裕仁
風紀 4A 池田 義裕
整備 4M 山田 洋
体育 4M 福嶋 健一
厚生 4M 瀬戸 睦士
報道 4E 岡田 浩二
娯楽 4C 宅島 秀典
写真 4A 玉井 孝幸



今年よりできが良く、そのなかでも3年生によるものは場内を爆笑の渦に巻き込み、優勝した。

二人羽織、コーラの早飲みは、今一つであったが、長声大会は予想以上に好評であった。腕相撲大会は、一・二年生が以外に強く、一年生の溝田君が次々と先輩を倒して優勝した。寮祭のトリである美人大会は、レベルが低いという人が多くいなかで、後藤君(3E)が大人の色気を発散させ優勝した。

最後に宝くじの一等の当選発表を行ない、盛り上がった寮祭は予定通り無事終了した。

11月31日(土)、寮生駅伝大会が開かれた。連日不安定な空模様で心配されたが、当日は曇り空であったため、開催できた。コースは、例年通り高専の敷地の外周1.3kmである。今年も1年生が良く頑張りました。



結果は一位が若葉棟3階で二位が銀杏棟3階だった。

成人祝賀会 4M 江藤 公俊

六十二度寮生会役員による最初の大事業である寮生バレーボール大会並びに成人祝賀会は一月十八日に盛大に行われた。恒例ではサッカー大会であるが、前日の雨のためにバレーボール大会に変更した。

バレーボール大会では、青葉棟のチームが優勝し、敗者復活戦は一年生同士の対戦になるなど、高学年より低学年の活躍が目立った。バレーボール大会終了後、引き続き成人祝賀会が行われた。成人者の紹介が始まり、竹村校長先生からは成人者に対しお祝いと激励の言葉を頂きました。恒例の胴上げは盛り上がりを見せ、万才三唱を最後に無事全日程を終了した。

最後に成人祝賀会を開催するにあたりお世話になりました関係者の方々にお礼を申し上げます。

バスケット 優勝 四年 電気
卓球 優勝 二年 電気
ハンドボール優勝 五年 建築
個人 角 惣一
最優秀クラス 四年 電気

あ、の弱気だった電気が、あの投げやりだった化学が、羊の皮をかぶった狼のごとく、快進撃を演じてみせた。

しかし、やはりどのクラスも、「一生懸命」と云う言葉がびつたりな若さと情熱をぶつつけ合い、そして輝く汗をコート一面に飛び散らせていた。

その途上で心の汗を流した者も多いだろうが、楽しみに競技する皆の姿がこの上なく素晴らしいこと。は言うまでもない。

表彰されるのはごく一部の人間であるが、敗れる者がいなければ、拍手を贈りたいと思う。

この熱意を勉強の方にも注いでくれると、先生方も喜ばれることだろうと思つたりもした。

最後に、この大会を無事終了させるに当って御指導して頂いた体育教官室、学生主事室の先生方、お手伝いをして下さった学生係、教務係の職員の方々、放送のお姉さん達、準備や片付けをしてくださいました各クラブ員、各科一年生、そして大会の主役であった選手諸君に「どうもありがとう」。

学生会体育局長 4E 田中穂

個人 優勝 二年 化学
サッカー 優勝 二年 化学
個人 野畑 光晴

学生会だより

新役員紹介

牛島会長以下、旧役員の任期満了に伴って、新役員が例年どおり冬季球技大会を境に交替したので紹介する。

- 会長 4A 主藤 大信
副会長 3A 江田 哲哉
書記 3A 熊野 康彦
4C 井藤 美幸
4A 森 年幸
4A 久田 力
3A 泉 茂
2C 久田 力
4E 山浦 英海
4E 田中 穂
4C 松井 利一
4A 吉住 英介
4M 坂巻 憲一
4M 山迫 洋

学生会長に選ばれて

4A 主藤 大信

私が学生会長に選ばれて、はや二ヶ月が過ぎました。初仕事の冬季球技大会も大したトラブルもなく無事終了しました。これらも諸先生方を始め、学生会役員、学生の協力のおかげだと思います。この場を借り、感謝とお礼を申し上げます。これからも皆さんの御支援御指

導のほど、よろしくお願ひします。さて、今年の学生会の目標について、少し書きたいと思つています。今年度の学生会の目標は、10月31日、11月1日に開催される高専寮祭を、今までと違ったものにするという事です。私は、今までに2度高専寮祭を見てきましたが、2度ともあまり変わりばえがしなく、マンネリ化していることを強く感じました。学生諸君も同じだと思

います。しかし、陰で不平、不満を言つても道は開けません。このマンネリ化を無くすには、「誰かがするだろう」という考えを捨てることが先決です。また、特に下級生は、「させられる」ではなく自分から積極的に「する」という意識をもつて下さい。

今年も、九州帝京短期大学もできる予定で、ぜひ、招待したいと思います。また、アマチュアバンドなどと呼ぶことも考えてますが、これらを実現するのは、学生会の力ではありません。学生の団結した力が必要です。どうか学生諸君は、私に力を貸してください。

次に、私が日頃思っている事を述べてみたいと思つています。

(一)×(二)÷(三)。この数学の公式が私には、人生の公式のように、思えます。つまり、失敗の繰り返し

は、成功につながるということ

です。私は、失敗を恐れず、失敗の繰り返しは、成功につながる、という言葉を信じ、これからも、がんばつていきたいと思つています。

さて、5年生の方々には、今、人生の大きな舞台の上に立ち、遙か長い道のりを、歩き始めました。そんな先輩方に、僭越ですが、私から、言葉を送ります。

明日の光りを、身体に浴びて、振り返らずに、そのまま行けばよい、風に吹かれても、雨に打たれても、自分の信じた道に背を向けるな。

役員研修

卒業される先輩方に、乾杯!

昭和六十一年十二月十三日(土)十四日(日)の両日、甘木山の大年田ハイットにおいて学生会役員研修会を行なった。学生会新旧役員十八名(新十一名、旧七名)、学生主事、同補三名の計二十二名が参加し、予期以上の成果を得た。

初日は、本校のグラウンドで、学生主事室の先生四名も含め、新旧学生会役員でソフトボールの試合を行ない、親睦を深めた。

大牟田ハイットでは、入浴、食事の後、会議室において三時間程度本校の現状と、問題点、および新執行部の目標などについて、活発な討議がなされた。

まず、自己紹介では、旧役員から新役員へのアドバイスを含め、一年間学生会活動で得た事などの披露もあり、新役員も大いに力付

けた。

クラブ学生表彰者一覧

〔体育局〕

- ◎硬式野球(5名)
 - ◎平川 伸二 ◎中山 正文
 - ◎江田 昭彦 ◎中内 哲也
 - ◎中西 寿人
- ◎軟式庭球(5名)
 - ◎二宮 智樹 ◎内野 治朗
 - ◎古賀 敏宏 ◎竹山 勝則
 - ◎松山 裕之
- ◎硬式庭球(該当者なし)
- ◎卓球(1名)
 - ◎幸田 芳典
- ◎ラグビー(4名)
 - ◎木村 一博 ◎玉本 一人
 - ◎永井 良和 ◎中溝栄次郎
 - ◎サッカー(4名)
 - ◎清谷 和久 ◎松田 和久
 - ◎竹浦 武則 ◎時津 好成
 - ◎パレーボール(2名)
 - ◎今岡 昭智 ◎矢野 達雄
 - ◎バスケットボール(5名)
 - ◎津留 英樹 ◎河野 清
 - ◎吉原 稔暢 ◎廣田 隆徳
 - ◎若杉 勝弘
 - ◎柔道(該当者なし)
 - ◎剣道(3名)
 - ◎竹原 康裕 ◎下田 靖
 - ◎立山 泰成

〔文化局〕

- ◎陸上競技(3名)
 - ◎樺島 浩二 ◎市村 直幸
 - ◎梅野 幸一
- ◎ハンドボール(4名)
 - ◎木下 実 ◎廣松 義隆
 - ◎松井 利孝 ◎石蔵 貴
- ◎弓道(3名)
 - ◎堀 保 ◎大津 一美
 - ◎清家 忠信
- ◎登山(該当者なし)
- ◎水泳(該当者なし)
- ◎写真(1名)
 - ◎井形 一紀
- ◎吹奏楽(8名)
 - ◎池田 高広 ◎島本 和浩
 - ◎清田 真一 ◎山中 英樹
 - ◎畑川 竜也 ◎美川 文夫
 - ◎坂田 正信 ◎龍 和宏
- ◎英語研究(該当者なし)
- ◎自動車工学研究(該当者なし)
- ◎高周波研究(3名)
 - ◎安東 聖一 ◎木原 雅孔
 - ◎瀬戸島弘一
- ◎天文(該当者なし)
- ◎漫画研究(該当者なし)
- ◎コンピュータ研究(4名)
 - ◎請村 博文 ◎柿添 健介
 - ◎村田 克也 ◎山下 恵三

第2回体育系クラブリーダー研修会

昨年度に引き続き、第2回体育系クラブリーダー研修会が12月6日(土曜日)午後一時半より五時まで実施された。前回はキャプテンの交替時ということで夏休み明けに開かれたが、今回はラグビー部のキャプテンが決まって全部のクラブの新キャプテンが揃う12月上旬に開くことになった。参加は新キャプテン、顧問教官、それに技術コーチの四十数名。最初に全体会として視聴覚教室のビデオを使い、伏見工高のラグビー部、山口監督による講演「やる気を育てる」(60分)のテープを見た後、新キャプテンばかりの

三つの班と顧問教官、技術コーチの班の四つの分科会に別れて討論をした。テーマは予めアンケートで希望の多かった「クラブ員のやる気を出すには」、「下級生の指導方法について」の二点であった。今回、討論された内容をここで幾つか紹介すると、新キャプテンからは、

- ◎上級生が先に立って練習する
- ◎練習方法を部員に説明し納得させてから練習する。
- ◎毎月、記録会を行なうなどして目的意識を持たせる。
- ◎また、顧問教官・技術コーチからは、
- ◎各クラブ、高専間で定期的に行なわれる練習試合を充実させることにより、クラブ活動の助長に役立てたらどうか。
- ◎の意見が出された。最後に指導法のまとめとして、総括顧問の仁田原先生が、
- ◎目標の設定(個人・集団)
- ◎競争心を持つ(競技・ライバル)
- ◎日新しさ(興味をそそる練習)
- ◎批判をするなら建設的に

の四項目を述べられ、さらに、キャプテンは15、20才の多感な若者を指導するという貴重な体験をするので、その中に意義を見い出して環境作りに努めねばならないと、結ばれて盛会のうちに終了した。

高専体育大会報告

ラグビー部顧問 中島 洋典
第23回九州地区国立工業高専専門学校体育大会ラグビーフットボール競技は、昭和61年11月22日より27日までの6日間、八代高専を主管校として同校グラウンドにおいて行われた。
本校ラグビー部は、参加校が一校増えたことから今年より一試合だけ設けられた一回戦を、22日の開会式直後に、大分高専と戦った。この試合は、フォアードとバックのままとまりが良く、18対4で快勝した。約10年ぶりの初戦突破で

ある。
二日目、23日の第4試合で対久留米高専の二回戦を行った。昨年の雪辱を晴らすべく試合に臨んだが、故障者が多く十分とは言えないコンディションの我チームは、7対42で敗れた。
本大会を振り返ってみると、久しぶりの一勝が最大の収穫であった。選手諸君が勝つことの苦しさや喜びを味わうことができ、チームにとつて良い経験となった。また同じように、負ける悔しさも知ったのである。これらは来年に向けて始動した新チームの活力源に、必ずやなり得ることであろう。次回大会以降の一層の上位進出を信じて。

